

ニュースレター

いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成19年8月発行 NO:7号



オオバナサルスベリ

ウブンドルのヤエヤマヤシ群落の生態を調査

平成19年7月30日に国指定の天然記念物となっている「ウブンドルのヤエヤマヤシ群落」の生態を観察調査しました。

ヤエヤマヤシは、八重山諸島だけに分布する一属一種のヤシで、島の植物相が熱帯的特徴をもっていることを示す植物の一つです。自生地は限られており、ウブンドルのヤエヤマヤシ群落は、石垣島の米原のヤエヤマヤシ群落について100本以上のまとまった個体が見られる貴重な場所となっています。

ウブンドルのヤエヤマヤシ群落は、仲間川流域上流部から急斜面を上った亜熱帯林の中に形成しているもので、容易にはたどり着けない場所にあります。



ウブンドルのヤエヤマヤシ群落

ヤエヤマヤシ群落内は、稚樹・幼樹も数多く見受けられ、今後も群落として維持されるものと思われます。

当センターでは、今後も観察を続けながら生育の状況を見守りたいと考えます。



ヤエヤマヤシの樹体



ヤエヤマヤシ群落の林相



ヤエヤマヤシの幼樹

第5回石西礁湖自然再生協議会へ参加

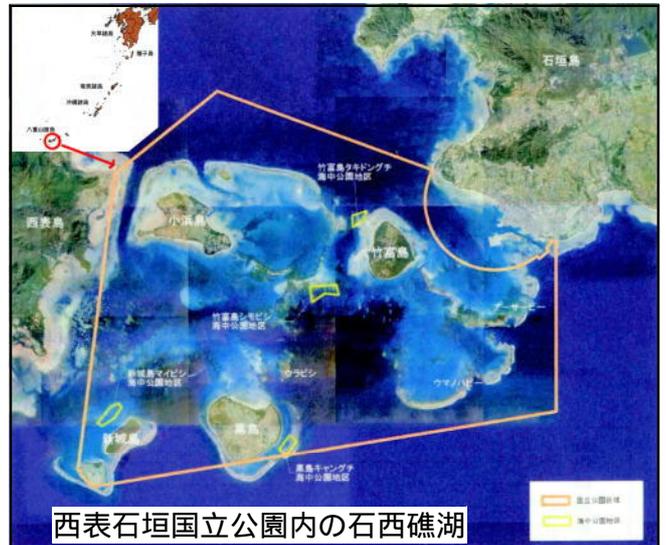


平成19年7月5日、第5回石西礁湖自然再生協議会が沖縄県八重山支庁会議室で開催され、当センターから構成委員として瀬高自然再生指導官が出席しました。

同協議会は、自然再生法に基づき環境省那覇自然環境事務所と沖縄総合事務局計画課を事務局として設置され、

石西礁湖の自然再生を推進するために必要となる事項を

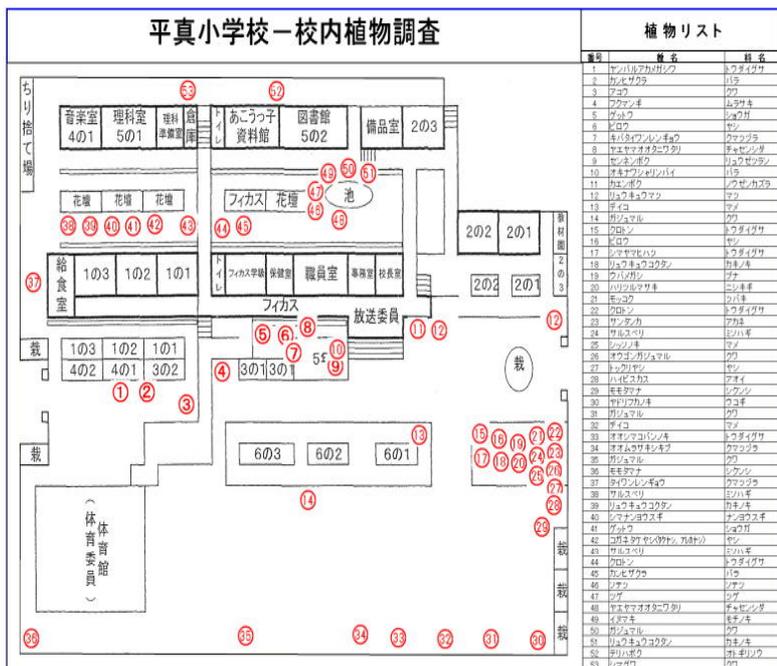
協議することを目的としています。協議会では、石西礁湖自然再生全体構想（案）について、自然再生事業実施計画について、今後の協議会の進め方についてなどの議題が提案され了承されました。



石垣市立平真小学校の校内樹木調べ

石垣市立平真小学校から、校内の樹木について調査をして欲しいとの依頼を受け平成19年7月19日植物調査を実施しました。

当日は、炎天下ではありましたが、担当の先生も一緒に校内をくまなく調べました。調査は、植物名、植栽位置を調べ、後日、植物観察の材料となる位置図（下記参照）などを作成し、学校へ提供しましたところ大変好評でした。



仲間川マングローブ林のモニタリングを実施

仲間川地区保全利用協定の締結事業者が実施するマングローブのモニタリング調査を、当センター職員が支援しました。当モニタリング調査は、行き交う遊覧船がもたらす曳き波によってマングローブ林の樹木が倒れる被害を未然防止する対策に役立てるために、砂泥の移動推移を定期的に調査しているものです。

事業者の保全利用協定により曳き波による被害は少なくなってきましたが、引き続きモニタリングを継続し、今後のマングローブ林の保全に努めていきたいと思っています。

当日は、多くの遊覧船が往来する中で、当センターの職員の奮闘振りもPRすることができました。



地盤高の測量(仲間川汽水域)



調査状況(仲間川汽水域)



仲間川を運航する遊覧船

伊野田小学校にタシロマメの苗木を贈呈

西表森林環境保全ふれあいセンターでは、平成19年3月にセンターにおける啓蒙事業の一環として、石垣島内に所在する小学校に希少種である「タシロマメ」の苗木の配布を行っていましたが、このところの炎天下で、石垣島中部の伊野田小学校から「植樹したタシロマメが枯れた。どうかならないだろうか。」との相談を受けました。



石垣市立伊野田小学校

そこで、当センターで予備として育苗していた3年生の苗木を再度贈呈することとして、職員が小学校を訪問し、育苗と植樹についての手ほどきを行いました。苗木を持って早々に訪問したことについて大変喜ばれました。この苗木が、すくすく育ち、大きな実をつけてくれることを願っています。

移入種ギンネムの繁殖・抑制試験についての経過報告

西表島南東部に位置する南風見田海岸林においては、台風被害等により一部の林分が破壊され移入種であるギンネムが侵入し海岸林全体へ影響を及ぼし、海岸林が有する保安林(潮害防備保安林・飛砂防備保安林など)機能を低下させている状況にあります。

ギンネムは、世界の侵略的外来種ワースト100に指定されている種で、一度侵入すれば他の樹種の定着を許さない性質からしても、海岸林全域においてその機能の脆弱性が懸念されているところです。

本試験は、ギンネムの繁殖を抑制することを目標に、伐採した根株にゴムシートでマルチング(被覆)を行い萌芽の発生状況を確認しました。調査資材として、ある一定の強度が要求されることからゴムシートを採用しましたが、その隙間から若芽が光りを求め容易に伸出することが確認できました。



マルチングした切株から発芽

調査結果(まだ観察の途中)は、海岸前線部の根株直径2~8cmの幼齢株がマルチング(被覆)をかいくぐり約8割がた萌芽を発生させていました。改めて萌芽の旺盛さが示された形となり、その繁殖抑制の困難さをうかがい知る結果となりました。

また、複数年経過した成木の根株については、幼齢木より萌芽の旺盛力は劣る傾向にある結果となりました。

今後は、マルチング素材の選択(密閉の容易な素材)、マルチング裾の広さ、マルチング時期等を考慮して再度試験を行う予定です。



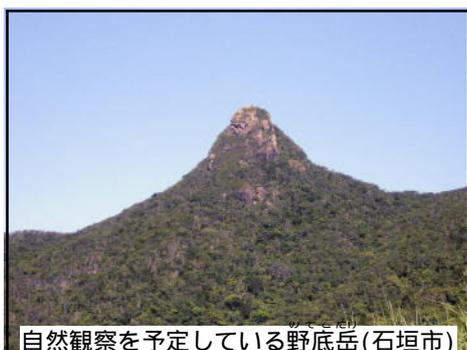
在来種を追い越し
生長するギンネム

九州森林管理局九州森林倶楽部自然観察会事前踏査を野底岳で実施

本年秋に八重山諸島で予定されている「九州森林倶楽部第3回イベント「八重山の自然と歴史にふれる2泊3日の旅」に備えて、石垣市内における計画の事前踏査を実施しました。

石垣空港到着後の見学箇所の行動予定について、距離、時間、観察内容の詳細な詰めを行いました。石垣島の見所は多く、かつ自然観察の植物も豊富なことから何を食べてもらうのかセンター職員で議論しながら調査を行い、大枠のコース及び時間配分等について石垣島におけるスケジュール案を検討しました。

当センターでは、このイベントについて全面的に支援していくこととしています。



自然観察を予定している野底岳(石垣市)

伝説：ヌスクマーペー

昔琉球王国時代役人が国王の命として人々を一人のこさず強制移住させる「道切りの法」という制度があった。

当時、黒島の宮里村のカニムイとマーペーは恋仲であったが道切りの法により享保7年(1732年)に建立された新村「野底村」へマーペーは強制移住された。

毎日カニムイの事を思い泣きもだえていたマーペーは近くの高い山に登ってふる里を見ようとしていたがオモト山(於茂登岳)が立ちばかり何も見えなかった。幾日もなげき悲しんだマーペーは頂上で祈る姿で石になった。

その後、人々はマーペーをあわれみこの山を「野底マーペー」と呼ぶようになった。

八重山歴史家：山水会 - 牧野清

西表島の樹木

今回は、南国の果物「パパイア」を掲載します。

パパイア(パパイア) *Carica papaya* (パパイア科パパイア属)

別名：チチウリノキ(乳瓜木)、モッカ(木瓜)、パウパウ、ママオ、ツリーメロンなどとも呼ばれることもある

南メキシコを原産としているが、現在では多くの熱帯の国々で果樹として栽培され、八重山地方の海辺の林野では野生化しているものもある。葉は先端部分に集まってつき、掌状に7~9裂する。葉の裏面は白っぽく、切ると白い液が出る。雌雄異株が普通であるが、雌雄同株も希に見受けられる。花は淡黄色で芳臭がある。果実は卵型、長卵型で大きさは品種によって異なる。黄色く熟し甘みはあるが、糖度はそれほどではなく、さっぱりとした味がする。緑色の未熟果をチャンプルーの材料として食される場合が多い。



雌株



雌雄同株



雄株

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>